



「頭の体操」のつもりで投資 株で損したが、投信などで利益も 税制改正で何が有利に?

58歳の会社員。妻は60歳の専業主婦。リタイア後の「頭の体操」と、少しはもうけてワンランク上の海外旅行でもできたらと、本格的に資産運用を始めました。

夫婦で投資関連の本を購入したり、インターネットで情報収集をしたりして、株式や投資信託を売買しています。妻は昨年、昔から保有していた評価損が大きい株式をあきらめて売却し、40万円の損失を出しました。私も昨年、株式売買でトータル50万円の損を出しましたが、株式の配当金と投資信託の分配金が合計で30万円ありました。

最近、「税制改正で配当金などの損益通算の対象が広がった」という話を耳にしました。「損失が繰り越せる」という話も聞きます。私たちが税制について、確定申告したこともありません。仕組みや手続きを教えてください。

「損の貯金」で賢く節税 ■ 「損益通算」も範囲広がる

株式や投資信託などの売却損と、配当や投資信託の分配金との相殺（損益通算）ができるようになります。

まず、株式や投資信託などの証券投資と税金の関係を整理してみよう。上場株式などを売却して利益が出たら原則、確定申告をして利益を報告し、税金を納める手続きが必要です。現在の税率は所得7%、住民税3%です。

証券会社や金融機関で証券投資をする場合、「一般口座」か「特定口座」を選択します。「特定口座」を利用すると、申告・納税の手続きの負担を軽減できます。

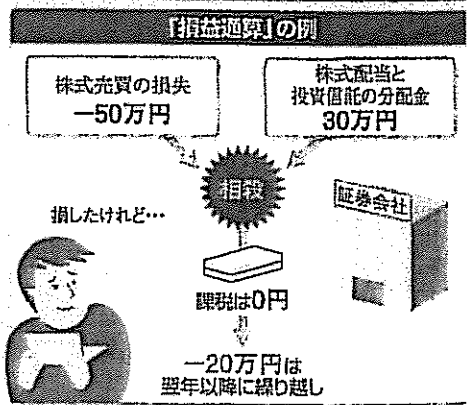
特定口座には「源泉徴収なし」「あり」の2タイプがあります。「源泉徴収なしの特定口座」は金融機関などが作成する1年間の売買記録を集計した「取引報告書」を使って確定申告します。

「源泉徴収ありの特定口座」の場合は、年間の取引で利益が出たければ、金融機関などが税金の源泉徴収をしてくれるので、申告は不要になります。

そして、二つ目のポイントは、株式の取引で損失が出た場合の扱いです。

確定申告しなければ、税務上は

「損の貯金」の例			
	株式売買の損益	確定申告で損失を繰り越し相殺	課税対象額
2009年	-40万円	-40万円	0円
2010年	20万円	-20万円	0円
2011年	10万円	-10万円	0円
2012年	20万円	-10万円	10万円



「利益がない」というだけで、「損失もなかった」ということになってしまいます。

確定申告して損失を出せば、翌年に繰り越すことができます。売買で利益が出た年に、繰り越した損失と相殺できるので、過去に出した損失を上限として、利益に税金がかけられなくなります。

相殺者の妻が昨年の40万円の損失を確定申告したとします。そうすれば、今年20万円、来年10万円、再来年20万円の利益が出たとして、今年と来年は金額、再来年

も10万円までは課税されません。損を出してしまったら、嘆息しむだけなく、「損の貯金」をして、その後の投資で利益が出たときに賢く税金対策ができるようにしましょう。

また、複数の金融機関などに口座を持つ場合、利益が出た口座と損失が出た口座があれば、これも確定申告をするだけで、相殺することができます。

二つ目のポイントは、相殺にもあったように、08年から確定申告によって株式の売却損と配当金などの間でも相殺できるようになったことです。

株式の配当金や投資信託（公社債投資を除く）の分配金に対する税金については、確定申告は不要です。11年までは所得7%、住民税3%が源泉徴収されます。

そして、相殺者のように、09年に株式の売買の損益が50万円のマイナスで、同じ09年に受け取った配当金と分配金の合計が30万円だった場合を考えてみましょう。

確定申告することで、売買損の

「確定申告書作成コーナー」でも入手できます。証券投資の申告では、「申告書第1表」と「第2表」のほか、「第3表（分離課税用）」も必要になります。第1、2表で株式などに関する以外の項目（年金や給与、控除など）を記入し、第3表では株式などについての項目を記入します。

配当・分配金の支払い通知書、年間の取引報告書を添付し、3月16日までに税務署に提出します。

FPアソシエイツ&コンサルティング
ファイナンシャルプランナー
福田 啓太